地域づくり人養成講座報告

『いかにして特産人を作るか』

伊方町地域おこし協力隊
楠本　博貴

はじめに

平成29年12月1日より伊方町の地域おこし協力隊として活動しています。講座が終わる頃には着任してから約1年が経過しますが、この文章を書いている現時点では協力隊として地域の要望を十分拾えているとは言えない状況です。活動する中で悩むことも多いのですが、何か問題解決の糸口でも見つけられればと思い、講座に参加させていただいた次第です。

講座を通じて学んだこと

初回の現場視察では別子銅山跡を新居浜南高校ユネスコ部の部員がガイド役として案内するという取り組みを見せていただきました。高校生が加わると地域振興や産官学の連携事業に若い世代の視点が入るので効果的であると思います。また、ユネスコ部が募っている別子銅山ガイドブック作成のクラウドファンディングでは期限を待たずして目標金額を達成している状況でした。クラウドファンディングを利用することは、現在の取り組みが一般的に支持を得られているのかの目安にできそうなので、とても効果的な手段であると感じました。

当日の講座はいかに持続可能なかたちで将来性のある取り組みができるかという点が主題で、文部科学省が推奨しているESD（Education for Sustainable Development）＝「持続可能な開発のための教育」に則ったものでした。銅の採掘という二次産業から三次産業である観光業へと移行している別子銅山は持続可能な産業の可能性を探る上では非常に良い舞台であると思いました。沢山の人が自身の周囲にある物や人に興味を持ち、個性や価値を認めることによって集団としての多様性を持つことが、変化に対する柔軟性を生み、長期にわたり産業価値を持続させるヒントになると考えます。身近にあるものに価値を見出すことは、どの地域振興においても焦点となることが多く、上手くいけば自身の故郷への帰属意識が生まれ、過疎化や人口流出への対策の一助となる可能性は高いと考えます。ただ、地域おこし協力隊になる人間は故郷に対する帰属意識が薄い場合が多いと個人的には考えています（帰属意識が薄いので他の地域に行き活動しようと考える）。よって故郷を離れて活動する地域おこし協力隊がより地域に密着して成果を出すには、活動する場所の地元の人々としっかり絡んでこそ成果に繋がるのではないかと感じました。

二回目と三回目の現場視察は郡中と三津の町でのまち歩きでした。これまでまち歩きの経験がほとんどなかったので、貴重な体験ができて良かったです。二回続けてのまち歩きでしたが、どちらも歴史のある建物が保存されており、共通点が多く見られました。ただ、今回の視察に限って言えば、郡中は割と長いスパンでの移住定住対策や地域振興を計画しており、三津は近い将来へ重点を置いて行動をしているように感じました。同じまち歩きの視察でも受ける印象が異なった点は興味深かったです。

講座で学んだことを踏まえて、これから取り組みたいこと

今回講座に参加することで沢山の場所を見て、人に会い、話を聞いて感じることも多かったのですが、やはり一番重要なのは人であるということを再認識しました。私が幼い頃から地域振興の話には特産品という単語がセットのように頻繁

に出てきました。その地域独自のものを利用した特産品は確かに価値あるものですが、どの地域でも特産品開発を目指すと、結局のところ物だけでは大多数の中に埋もれてしまうと思います。また、人口減少や過疎化の影響により、地域に住む人も減少し、何か物を作ろうにも多くの人が携わることが難しくなってきています。これからは人や物を結び付け、アイデアや仕組みを具体化できる能力のある「特産人」をいかにして育てられるか。少人数でも付加価値のあるモノを作り上げることのできる人を増やせるかが重要になってくるのではないかと考えます。

地域への思いと地域づくりの抱負について

昔から私は都会よりも地方での生活が好きでした。しかし、今の社会は必ずしも地方の良さが十分認められているとは言えず、結局都会が重視されているというのが現実です。都会への人口偏重が状況を如実に表していると思います。

地域おこし協力隊としての自分が地域自体を特産品化できるような特産人となる為に、他者の考えや価値観を認めながらも、自身の価値を高めていけるよう努力していきたいと思います。

この度は貴重な体験をありがとうございました。

2019年度「地域づくり人養成講座」受講生の募集

（公財）えひめ地域政策研究センターでは、地域づくりに関心のある方々を対象に、地域づくり人養成講座を開催します。講座では、専門家による講演、地域づくり活動地への訪問、現地でのワークショップなどを通じて、地域づくりの意識やスキルの向上を図ります。

◆研修期間

2019年6月から2019年11月までの間で、年間6回程度の開講を予定しています。

◆内容

テーマ毎に県内各地に赴き、現地活動者の指導を受けながら、地域の現状を学ぶとともに、現場に即した課題解決能力の向上を目指してワークショップなどの実践的な研修を実施します。さらに、事業を通じて参加者相互や県内各地の地域づくり実践者との交流を図り、研修終了後の活動にも活かせるネットワークをつくります。

◆受講料

原則受講料は無料ですが、飲食費、研修会場や集合場所までの旅費等は自己負担となります。

◆募集人員及び応募資格

○25名程度

○地域づくりに関心があり講座に継続して参加可能な方（地域づくりの活動者、行政職員〈県・市町〉、学生、各種団体関係者など）

◆応募期間

2019年5月末まで

◆応募方法等

詳細はホームページをご覧ください。

地域づくり人養成講座　検索

http://www.ecpr.or.jp/actions/training-course/